

「言語文化」における「読むこと」の授業づくり

はじめに

1 単元の概要と本時の位置付けについて

2 授業の「つくり方」について

3 単元の目標を実現するための工夫について



はじめに

令和6年度、東京学芸大学「高校探究プロジェクト」と北海道教育委員会「授業研究セミナー」がコラボレーションし、道立高校教諭4名（授業者1名、協力員3名）、道教委指導主事及び東京学芸大学「高校探究プロジェクト」スタッフから成る「授業研究チーム」を編制し、「単元の指導と評価の計画」等について検討を重ね、セミナー当日に研究授業を行いました。

このスライドでは、本セミナーに係る取組から授業づくりのポイントを提示し、御覧いただいた先生方の今後の授業改善にお役立ていただきたいという方針で作成しました。

皆様の御参考になれば幸いです。



1 単元の概要と本時の位置付けについて

言語文化

【単元名】

複数の作品を読み比べ、
古典文学作品が「どのように」書かれているか考えよう

【単元の目標】

- (1) 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 [知識及び技能](2)ウ
- (2) 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 [思考力、判断力、表現力等]B(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 
「学びに向かう力、人間性等」

1 単元の概要と本時の位置付けについて

次	主たる学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「九月二十日のころ」の内容を理解するのに必要となる文語のきまりについて理解する。 ○「九月二十日のころ」において、筆者が伝えたいことを理解する。 	●			古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(2)ウ)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者が伝えたいことを効果的に伝えるために、どのような工夫をしているか、「筒井筒」または「月やあらぬ」と読み比べて考える。 ○個人の考えをグループで検討し整理する。 		●		「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方について評価している。(B(1)ウ)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループでまとめたものを発表する。 ○他のグループの発表を参考にして、自分の考えを批評文にまとめる。 		●	●	複数の作品を読み比べ、批評したり討論したりすることを通して、文章の構成や展開、表現の仕方について粘り強く評価する中で、自らの学習を調整しようとしている。

2 授業の「つくり方」について

単元の目標について

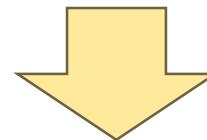
文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色は、いずれも、何が書かれているかという内容ではなく、内容がどのように書かれているかという形式に関わっている。これらについて捉えた上で評価することを求めている。これらを評価する際には、文章が書かれた目的に照らし、その効果が適切なものであるか、自分の知識や経験に照らし合わせて優れた工夫といえるかなどについて検討することが必要である。

評価するとは、読み手が価値判断することであり、例えば、文章の構成や展開、表現の巧みさなどについて、優れている点だけでなく課題とされる点も含めて指摘することを指している。読み手は、文章を完成されたものとして受け止めるのではなく、自分にとってどのような価値をもっているかを判断し、説明できるようになることが求められる。



単元名に込めた授業者の思い

複数の作品を読み比べ、
古典文学作品が「どのように」書かれているか考えよう



「どのような内容が書かれているか」ではなく、
その内容が「どのように書かれているか」について
「評価する」ことができる生徒を育てたい。



3 単元の目標を実現するための工夫について

(1) 課題設定(発問)の工夫について

【目標】

文章の構成や展開、表現の仕方について評価する。



【課題】

筆者が伝えたいことを効果的に伝えるために、文章の構成や展開、表現の仕方について、どのような工夫をしているか考えよう。



(1) 課題設定(発問)の工夫について

2 (2単位時間)	<p>○【個人】 筆者が伝えたいことを効果的に伝えるために、どのような工夫をしているかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前次で理解した、筆者が本文で伝えようとしている「その人」の「ものあはれ」な振る舞いについて、「どのように」伝えようとしているかを考えさせる。 ・考える手がかりとして、次のことを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ① 文章の構成や展開、表現の仕方に着目すること。(生徒へは「どのような工夫をしているか」という問い合わせで説明。) ② 「筒井筒」または「月やあらぬ」と読み比べ、本文との共通点に着目すること。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の確認」 ワークシート ・作品の構成や展開、</p>
--------------	--	--	---

(本単元の「単元の指導と評価の計画」より)

3 単元の目標を実現するための工夫について

(2) 言語活動と教材における工夫について

【言語活動】

複数の作品を読み比べ、文章の構成や展開、表現の仕方について、批評したり討論したりする。 (関連:〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)イ)

【教材】

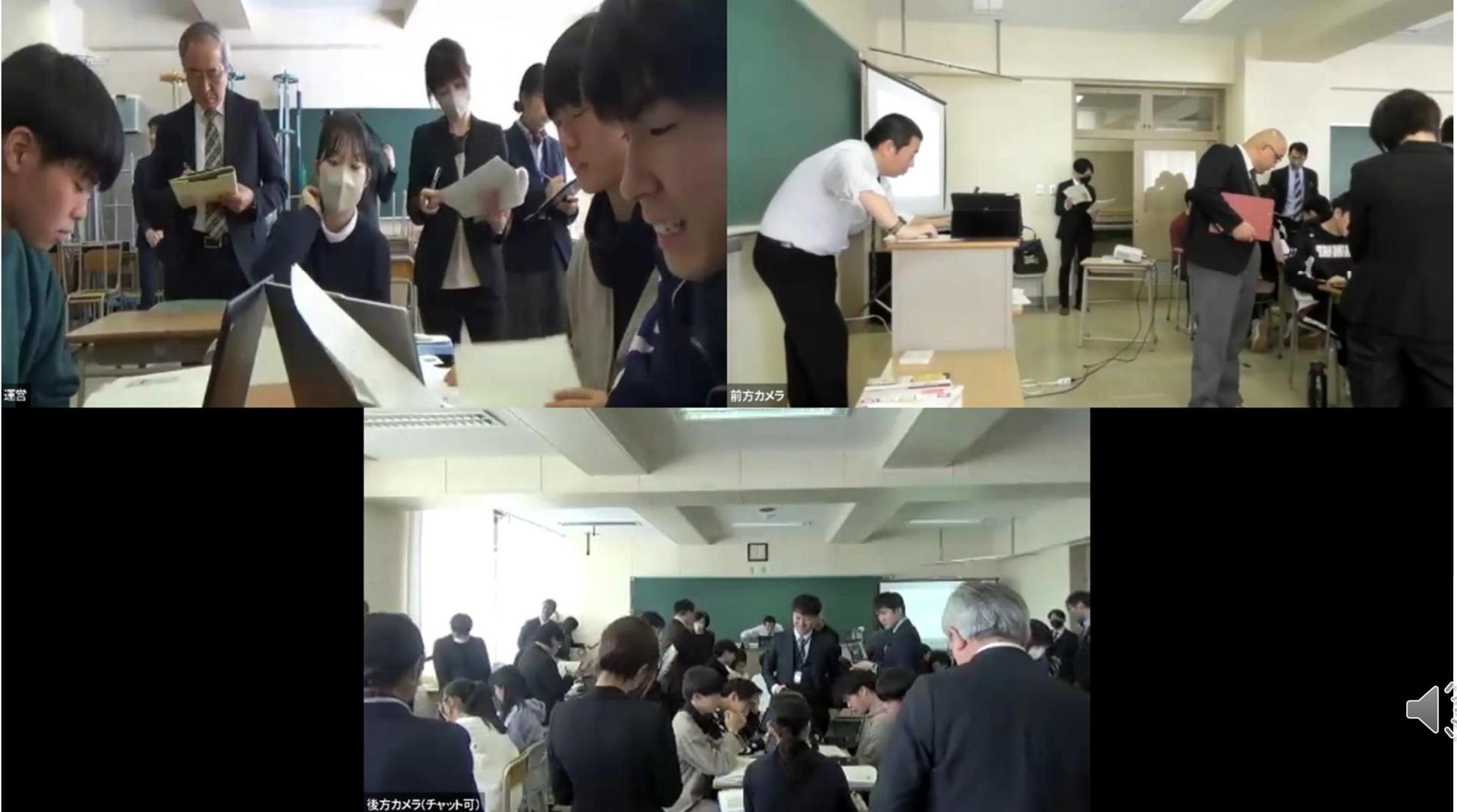
「九月二十日のころ」(『徒然草』第32段)

「筒井筒」(『伊勢物語』第23段)、「月やあらぬ」(『伊勢物語』第4段)



3 単元の目標を実現するための工夫について

(2) 言語活動と教材における工夫について



3 単元の目標を実現するための工夫について

(3) 成果物の工夫について

こここの記述が適切であれば、「おおむね満足できる」状況(評価B)とする。

批評文を書いてみよう

この記述が適切であれば、「十分満足できる」状況(評価A)とする。

【3】(チャレンジ問題)		【2】	【1】	批評文	選択	作業手順	
B	A				③	②	①
				「九月二十日のころ」と「筒井筒」について 「九月二十日のころ」と「月やあらぬ」について	「九月二十日のころ」と「筒井筒」について	「九月二十日のころ」と「月やあらぬ」について	AまたはBを選択し、○をつける。 【1】と【2】に適切なことばを記入し、批評文を完成させる。

制作・協力
北海道教育委員会 国立大学法人東京学芸大学

